



# 受験英語の見取り図



## 1) 文型がわかる→訳し方が決まる!

### ■文型の基本訳

- |   |                                 |  |  |
|---|---------------------------------|--|--|
| ① | SV                              | 【基本訳】「SはVする」                                 | (例) Mizuki lives in Nagoya now.        |
| ② | SVC                             | 【基本訳】「SはCである／になる」                            | (例) My father is a philosopher.        |
| ③ | SVO                             | 【基本訳】「SはOを[に]Vする」                            | (例) We study English.                  |
| ④ | SVO <sub>1</sub> O <sub>2</sub> | 【基本訳】「SはO <sub>1</sub> にO <sub>2</sub> を与える」 | (例) I gave my wife a ring.             |
| ⑤ | SVOC                            | 【基本訳】「SはOをCにする」                              | (例) The news made Rei happy.           |
|   |                                 | 【基本訳】「SはOをCだと思う」                             | (例) You will find this movie exciting. |

上記5つのパターンをまとめて「5文型」と呼びます。「英文を正しく読解する」とは、その英文がどの文型かを判断し、それぞれの【基本訳】に単語の意味をあてはめることです。この【基本訳】は丸暗記しなければなりません。

### ■文の要素

- |                   |  |
|-------------------|--|
| S 主語 (Subject)    | 日本語の「何は、何が」にあたる部分。 <u>名詞が担当</u> 。<br>(例) <b>Fuyuka</b> came to Nagoya three years ago.   |
| V 動詞 (Verb)       | 日本語の「どうする、どうである」にあたる部分。<br>(例) Albert <b>teaches</b> physics at this college.<br>(例) Our cats <b>are</b> very cute.              |
| O 目的語 (Object)    | 日本語の「何を、何に」にあたる部分。 <u>名詞が担当</u> 。<br>(例) We play <b>soccer</b> almost every day.<br>(例) Miki reached <b>the theater</b> at five. |
| C 補語 (Complement) | 日本語の「どんなだ」にあたる部分。 <u>名詞か形容詞が担当</u> 。<br>(例) My mother is <b>a vet</b> .<br>(例) His words made us <b>angry</b> .                  |

「文の要素」とは5文型の「主要登場人物」だと考えてください。ここではどの要素をどの品詞が担当できるかを覚えてください。「主語になれるのは？」と問われたら「名詞！」と、「目的語になれるのは？」と問われたら「名詞！」と、「補語になれるのは？」と問われたら「名詞と形容詞！」と即答できるようにしてください。これらも丸暗記する必要があります。



## ■品詞の基礎知識 品詞を知らないと瀕死? 品詞を知らないとピンチ!

★名詞 … SかOかCになる。

(例) *Everyone* has a dream. (SとO)

(例) *Kazu* is a superstar. (SとC)

(例) *Rika* was born in *Osaka*. (Sと前置詞のO)

★形容詞 … 名詞を修飾するかCになる。

(例) a *useful* book (名詞を修飾)

(例) This book is *useful*. (SVCのC)

(例) I find this book *useful*. (SVOCのC)

★副詞 … 名詞以外を修飾する。

(例) a *very* cute turtle (形容詞 *cute* を修飾)

(例) Aika dances *happily*. (動詞 *dances* を修飾)

(例) *Luckily*, I found a dictionary. (文を修飾)

★前置詞 … 前置詞+名詞で、形容詞句か副詞句をつくる。

(例) a cat *in the box* (形容詞句)

(例) go to *Namba* (副詞句)

ここでは英語の品詞の中でも特に重要な4つを解説しています。これらを覚えることで文型を正確に判断できるようになります。どうか面倒くさがらずに覚えてください。理想を言えば、**名詞・代名詞、動詞・助動詞、形容詞・副詞、前置詞・接続詞**は具体例をスラスラと言えてほしいのですが…。

## ■文型の判断法 品詞を知っているとれC! 品詞を知っているとたのC!

(1) SV ⇒ SV

(2) SV [形] ⇒ SVC

(3) SV [名] ⇒ SVC ※S = [名] のとき

SVO ※S ≠ [名] のとき

(4) SV [名] <名> ⇒ SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub> ※[名] ≠ <名> のとき

SVOC ※[名] = <名> のとき

(5) SV [名] [形] ⇒ SVOC

文型とは一言で言ってしまうと、動詞を中心とした品詞の並べ方のことです(ですから、品詞をしっかり理解して覚えていないと文型はわかりません)。副詞は文の要素(S, V, O, C)にならない脇役なので、文型を判断する際は無視してください。



## 2)「かたまり」に強くなろう!

2語以上の単語が意味的にまとまっていて、その中にS Vを含まないものを句、含むものを節といいます。ここでは句と節を区別せず、まとめて「かたまり」として扱います。

### ■名詞のかたまり

- (1) *To study a foreign language* is good for your brain.
- (2) The girls enjoyed *dancing on the stage*.
- (3) The problem is *that we do not learn the lessons of history*.
- (4) I want to start a blog, but I do not know *what to write*.
- (5) *Where the scientist lives* is a secret.
- (6) I wonder *if Keiji will come to Yonezawa with us*.
- (7) *Whoever talks with Mr. Odagiri* comes to like him.

(1)は不定詞句(名詞的用法)でSの位置に、(2)は動名詞句(Vingの名詞的用法)でOの位置に、(3)は接続詞 that が導く名詞節でのCの位置に、(4)は疑問詞+to 不定詞でOの位置に、(5)は間接疑問文でSの位置にあります。このように、名詞のかたまりはSかOかCの位置、つまり、主にVの前後に登場します。(6)のif節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここではOの位置にあるので名詞節です。(7)の whoever 節も名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここではSの位置にあるので名詞節です。

### ■形容詞のかたまり(後置修飾)

- (1) Minoru taught us the history *of sugar*.
- (2) Akane has a lot of birds *to look after*.
- (3) The cats *playing in this room* are all very cute.
- (4) Kazuma likes books *written in English*.
- (5) I have a friend *who is a soccer player*.
- (6) This is the bank *at which my brother works*.
- (7) I will never forget the day *when I first met Taro*.

(1)は前置詞句が、(2)は不定詞句(形容詞的用法)が、(3)は現在分詞句(Vingの形容詞的用法)が、(4)は過去分詞句(Vp.pの形容詞的用法)が、(5)は関係代名詞節が、(6)は「前置詞+関係代名詞」で始まる関係詞節が、(7)は関係副詞節が、それぞれ名詞の直後にあります。このように、形容詞のかたまりは主に名詞の直後に登場します。日本語では「(クマについての) **本**」のように修飾語(カッコの部分)が名詞の前に来ますが、英語では **a book** (about bears) のように名詞の後ろに来ます。英語は「後置修飾」の言語だと覚えておいてください。

## ■副詞のかたまり

- (1) Fossil fuels are used in most countries.
- (2) I had few friends when I was in college.
- (3) I want to study in the U.S. to improve my English.
- (4) Seeing me, the baby began to cry.
- (5) Seen from a space ship, the earth looks blue.
- (6) If it rains heavily tomorrow, the game will be postponed.
- (7) Whatever Kenji may say, we shouldn't believe him.

(1)は前置詞句が文末（S V～の後）に、(2)は接続詞が導く副詞節が文末に、(3)は不定詞句（副詞的用法）が文末に、(4)は分詞構文（Ving の副詞的用法）が文頭（Sの前）に、(5)は分詞構文（Vp.p.の副詞的用法）が文頭に來ています。このように、副詞のかたまりは主に文頭（Sの前）か文末（S V～の後）に登場します。(6)の if 節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここでは文頭にあるので副詞節です。(7)の whatever 節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここでは文頭にあるので副詞節です。

## ☆☆☆書籍紹介☆☆☆



### 『英文法入門 10 題ドリル』『英文法基礎 10 題ドリル』

本書は、皆さんが英語を好きになる、英語ができるようになることを願って書きました。

前著『英文法基礎 10 題ドリル』はサッカーにたとえると、「パス練習、シュート練習」にあたります。本書『英文法入門 10 題ドリル』は正確なパスやシュートをするための「ボールを止める、蹴る」技術を反復練習によって習得するドリルです。つまり、英語を「読む、書く、聞く、話す」上で必要不可欠な知識を頭で理解し、体に覚えさせるのを目的とした問題集なのです。

（『英文法入門 10 題ドリル』「はじめに」より）

### 『英文読解入門 10 題ドリル』

本書では、まずは型どおりに訳すこと、つまり正確に「直訳」できるようになることを目指しています。よって、正解として提示した訳例は不自然にならない程度の直訳にしています。型にはめた訳ができるようになってから、より自然な和訳を目指した勉強に進んでください。いわゆる「守破離」の「守」が『英文読解入門 10 題ドリル』の目標です。

（『英文読解入門 10 題ドリル』「本書の使い方」より）